

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190500660		
法人名	(株) じょうてつケアサービス		
事業所名	グループホーム菜の花豊平館 1 階		
所在地	札幌市豊平区豊平3条8丁目1ー18		
自己評価作成日	平成24年8月27日	評価結果市町村受理日	平成24年10月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 24年 9月 27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・2階には3箇所の避難袋、防火扉を設置
- ・ソーラパネル、LED電気、電気自動車などエコ重視に努めている。
- ・AEDをホーム玄関内正面に設置している。
- ・地域交流スペースには、本やゲーム、トレーニングマシンを設置し地域の方やご家族様も活用できるようになっている。
- ・駐車場屋上スペースを利用した屋上庭園では、家庭菜園を楽しんでいる。
- ・駐車場にて夏祭りを開催し館内にてはチェロコンサートを開催しご家族様や地域の方々にも来ていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当グループホームは、運営会社として平成15年に初めてのグループホームを設立してから8カ所目のグループホームであり、これまでの運営で培われた多くのノウハウが結集されています。運営会社の代表は利用者本位の設備や、そこで働くスタッフの理想の職場を作るため、現場に足を運びながら管理者をはじめスタッフと語り合うことを繰り返し、グループホームのあるべきスタイルの創造に努めてきました。他の地域で発生した悲惨な火災事故を大きな教訓として、災害に対するあらゆる事態を想定して設備を整えるとともに、スタッフのスキルアップに努力を惜しまない法人の姿勢は特筆されます。駐車場の屋上空間を利用した菜園では、利用者の野菜栽培が可能で、連絡路を通しての菜園はグループホーム内の一部として利用者の豊かな暮らしを支えています。また、「地域交流スペース」の多目的利用はこれから大いに期待されます。法人では現状に甘んずることなく、スタッフのこれまで以上のスキルアップに努め、この事業所のレベルアップを図ろうとの熱意が感じられます。

Ⅶ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	63	1. ほぼ全ての家族と
		○ 2. 利用者の2/3くらいが		○ 2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいが		3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない		4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	64	○ 1. ほぼ毎日のように
		○ 2. 数日に1回程度ある		2. 数日に1回程度
		3. たまにある		3. たまに
		4. ほとんどない		4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	65	1. 大いに増えている
		○ 2. 利用者の2/3くらいが		○ 2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが		3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない		4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	66	1. ほぼ全ての職員が
		○ 2. 利用者の2/3くらいが		○ 2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが		3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない		4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	67	1. ほぼ全ての利用者が
		○ 2. 利用者の2/3くらいが		○ 2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない		4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	68	1. ほぼ全ての家族等が
		○ 2. 利用者の2/3くらいが		○ 2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが		3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない		4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が		
		○ 2. 利用者の2/3くらいが		
		3. 利用者の1/3くらいが		
		4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝・夕の申し送りの際に法人理念・ケア理念を唱和している。毎日、今日の目標理念を決め、その日の達成度を介護日誌に記録している。	毎日のサービスの中で、理念に裏打ちされた目標が達成されているかといった確認が行われています。さらに内部研修では、理念の共有と実践が確実に行われるように個々のサービスへの振り返りが行われています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	玄関先の掃除やお花の手入れ時に地域の方々とお話ししたり、夏祭りやコンサートに来て頂いている。	近隣に住宅が少ない環境の中で、運営推進会議をはじめとする地域住民との交流を最大限努力しています。グループホームでの夏祭りやミニコンサートを開き住民もお誘いするなど交流の輪が広がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には、町内会長・町内会役員の方が出席されている中日々の生活状況報告を行っている中で認知症の理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者全員から、地域の行事や交流の場の情報を頂きながら入居者様の地域参加に役立てている。神輿巡業の見学を楽しんだり、ホーム前で子供みこしを見て楽しんでいる。	グループホームの状況を理解いただくため詳細な報告や情報の交換が行われています。地域の参加者からもグループホームの求める情報が寄せられています。会議はその都度テーマを絞りながら行われマンネリ化の防止に努めています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市におけるグループホーム管理者会議に参加し情報交換など行っている。 入居前に入居ご家族様のご相談をさせて頂いている。	毎回の運営推進会議に市の担当者を迎えるほか、市で開催される諸会議に出席し、情報の収集や状況報告など常に連携した関係を維持しています。新たな入居に際して家族を交えた相談も行われることもあり市との協力関係は堅持されています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加したスタッフからの研修報告をもとに、カンファレンスで話し合いを行った。 施錠は夜間のみ防犯のために行っているが通常は施錠なく自由に入出入りして頂くなど、身体拘束の無いケアを実施している。	スタッフは、ケア理念をベースとした身体拘束のないケアの実践を日々行っています。外部研修での情報は内部研修での報告会により、スタッフ個々のスキルアップとして吸収し実践に生かされるよう努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフは外部・内部研修を受けその報告をもとに再度内部研修を行い日々スタッフ間で声を掛け合い、不適切なケアにならない様声掛け合い注意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・リーダーは外部研修を受け学んでいるが、現在活用対象となる入居者様はいない。 今後は、相談活用できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時及び退去の際には、本社から担当職員が来館し重要事項・利用料金など十分な説明を行い理解をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や来館時にご家族様から意見をもらい反映させている。 玄関にご意見BOXを設置している。	当グループホームでは、家族等の訪問頻度が高く、訪問に合わせた会話を通して家族の意見や要望を聞きながら運営に反映するように努めています。家族からの苦情、疑問にも真摯に対応しています。玄関内の意見箱の利用は十分ではありませんが、家族への啓発など今後の研究が望まれます。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回行われる、管理者会議やリーダー会議において報告として挙げている。又カンファレンスに於いても意見を聞いている。	代表及び本部職員はグループホームでの諸会議に出席し、現場の状況を把握しながら一体となったサービスの向上に努めています。スタッフ間でも常に前向きな姿勢から意見交換が行われています。毎月発行のグループホーム会報の紙面も、家族にとって楽しめるものへの改善など提案の中から実現された例もあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	夜勤専従のスタッフを置き夜間帯は2ユニット3名体制で行っているため、夜間休憩が確立してとることが出来る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部はもちろんのこと、外部研修に関しても勤務時間として受ける体制になっている。又、外部研修を受けたスタッフは内部研修として研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年度は同系グループホーム4館の夏祭りに参加することで交流を深めている。館の中には同業者との共同開催の夏祭りもあり、他事業所との交流を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時面談で現在の様子をご家族様と一緒に確認している。又、入居前に基本情報を提出して頂く等、入居前からご本人様を知る様勤めている。入居時にはご本人様の意志で呼ばれたい呼び名を伺う様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前からご家族様との連絡を取りながら信頼関係づくりに努め基本情報シートをもとにアセスメントを行い介護計画書を作成している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時に家族の希望を聞き必要に応じて他のサービスの利用にも対応している。訪問マッサージ・訪問理美容・訪問歯科等の相談も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の後の食器洗いや食器拭き、庭掃き等入居者様の出来る家事を一緒に行っている。ご家族様との思い出の写真アルバムを一緒に作成し居室に飾っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	庭園での野菜作りは、入居者様とご家族様とスタッフと共に行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご家族様と一緒に知人の訪問又ご家族様との外出やご自分の住み慣れた家に外泊されている。	家族の訪問をはじめ知人などの訪問に際しては、利用者とスタッフがこぞって歓迎するなど馴染みの関係維持に努めています。また、家族との外泊にも支援しながら住み慣れた家、地域などの関係を大切にしよう努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体調の悪い方の背中をさすったり、ソファで横になられている方に掛物をかけたりとお互いにかかわりあっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後のご家族様からの連絡や相談には解る範囲で対応させていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現在のご本人の希望や、入居時の基本情報をもとにご本人の生活歴を紐解きながらモニタリングやアセスメントを取り、担当者会議で話し合いご本人様の意向の把握に努めている。	スタッフは利用者と共に過ごす暮らしの中から、利用者の抱く思いや意向を捉え、日々の気付きとして記録し共有を図るように努めています。また、これらの気付きはカンファレンスに反映させています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族様から入居までの生活状況等を提出頂き、入居後もご本人様との会話で情報を膨らませスタッフ間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調の変化をスタッフが把握できるよう、毎日朝夕の申し送りを行いその日の散歩などを決めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンス及びモニタリング、計画書作成前にはご家族様の意向をお伺いしている。又医療機関などと連携を図れるように計画書に反映している。	毎日の暮らしの記録が細やかに記載され、家族からの情報も反映された本目細やかな介護計画となっています。また、訪問マッサージからのアドバイスも身体機能の維持に役立てるなど家族からの信頼を得ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきを付箋に張り出し職員間で情報を共有し、月一回のカンファレンスで話し合いで介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	プロの演奏家を招いて、入居者様、ご家族様や地域の方々と共に楽しみながら聴くことが出来るようチェロコンサートを開催支援した。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアによりカラオケコンサートを開催していただき、懐かしい曲を聴いたり一緒に歌ったりと笑顔の時間を楽しまれた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回訪問診療を受けられている。緊急時には往診を受けることも可能、入院を要する時は医師から入院先に情報連絡を取ってくれている。	従来のかかりつけ医への受診治療は本人や家族に意向を踏まえ支援されています。また、協力医による毎月2回の訪問診療により、適切な医療が受けられる環境づくりが行われています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回本社より看護師が訪問があり日々の体調の変化等を報告・相談し、アドバイスを受けることができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ホームでの生活状況を報告し、入院中はご本人の生活状況を把握できるよう定期的に面会し医療担当者からもお話を伺いながら、ホームでの生活が可能な限り早い段階で出来るよう情報交換をした。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に重度化について説明し、ご本人様やご家族様の意向を伺えるよう「私が望む医療・望まない医療」に記入・提出していただいている。又「私が望む医療・望まない医療」はご本人様・ご家族様の意向でいつでも変更書き直しができるようになっていいる。	「私が望む医療、望まない医療」の記入で本人及び家族の意向を一番に考えた方法により重度化や終末期に向けた対応を行っています。更には看取りケアにまで及ぶ支援が行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修等で定期的に行い、対応できるように努めている。スタッフは全員、普通救命講習を受講している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な時間帯の火災を想定し、定期的に避難訓練を行っている、今後は地震を想定した避難訓練も計画中。災害に備えて、発電機・ジェットヒーター・ランタン・非常食の他、入居者様ひとりひとりの薬を非常薬に防災グッズとして備えている。	様々な条件を考慮した年4回の避難訓練が行われ、災害に対する高度な対応を垣間見ることが出来ます。非常時に対応して2階に設置された避難袋、防火壁、階段の滑り台、発電機、ジェットヒーターなどグループホームの設備に対する関心の深さに驚きます。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命令口調の言葉は出さない事を徹底している。申し送りの際はプライバシーの保護の為、個人の名前ではなく、居室の番号を使っている。	一人ひとりの人格尊重、また、プライバシーを損ねない支援はまずスタッフの優しい言葉かけと対応に見ることができます。毎朝の申し送りに際しても、個人名をあからさまにしない配慮があります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	リビング食席の席替えでは、ご自分の座りたい場所を選んで頂いた。外食の際は、メニューの中から、ご自分の食べたいものを選んで召し上がっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご家族様との外出でお食事の時間にかかっている時には、ご希望があれば帰宅後にお食事を取っていただけるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の全ての衣服の中から選ぶの困難な方にはスタッフが何点か選びその中からご本人に選んでいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえの野菜の皮むきや盛り付けをしていただいたり、下膳や食器洗い食器拭き等スタッフと共に行っていただいている。又おやつやの買い物にスタッフと一緒にいき食べたいものを選んでいただくこともある。	ユニット間で若干の差異はありますが、利用者の楽しい会話や笑顔溢れる食事風景を垣間見ることが出来ました。食卓には利用者が選んだランチョマットの上で彩の良い食事が供されています。食後の後始末、食器洗いは率先して参加しています。	栄養バランスにも配慮された食事は利用者の満足を満たしているものと考えますが、家族にも伝える配慮が望まれます。家族への便りの中に一週間の献立など情報を提供することで、より安心の絆が構築されるもの思慮します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	居室での生活を中心としている方には、定期的に声かけし水分の提供を行っている。リビングに置いては個別にこまめに提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居時には訪問歯科の口腔診断をしていただき、医師に個々の口腔ケアの指示を受けている。食後の口腔ケアも実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在おむつを使用されている方はなく、全員トイレにて自力排泄を行っています。失敗の無い様排泄表を活用しそれぞれのタイミングに合わせた声掛けを行っている。	利用者の日常が細やかに記載されている「生活チェック表」により排泄パターンの把握が行われ、トイレでの自力排泄を促し、成功しています。現在のところオムツ使用者は無く、スタッフのタイミング良い声かけ、誘導が継続されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪問医に個々の入居者様に対し相談しながら、腹部マッサージや食物のアドバイスいただき、個々の入居者様の便秘予防と改善を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人様の体調気分を見計らった声かけを行って、流動的に週数回の入浴が出来るようにしている。	入浴は週に2回を基本としていますが、利用者の体調を考慮した柔軟な支援が行われています。夏季の猛暑に対応したシャワー浴も加え清潔で楽しい暮らしに貢献しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の意向で居室にて寝られるまでは、リビングにて穏やかな時間を自由に過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からのお薬情報を処方時スタッフ全員が確認をおこなっている。又お薬が変更になった時は朝夕の申し送り確認を取り合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	植物の成長に楽しみを持ってこられた入居者様にホームの庭園や鉢植えの手入れをスタッフと共にに行っていたらよい計画書に反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様の希望でご主人の月命日にはご家族様と一緒にのお寺参りをされている。出来るだけ長くご家族様との外出が出来る様ホームでは、脚力維持・向上が図れる介護計画にしサービスを行っている。	利用者の健康維持、気分転換のため可能な限り日常の散歩を取り入れています。「散歩表」を活用した利用者の動向やスタッフのローテーション等を考慮すると共に、出来るだけ家族と共に外出できるよう促し、支援が行われています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	夏用の洋服をスタッフと一緒に買いに行き、試着をしご本人の意向で選んで購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や知人からのお電話やお手紙は直接ご本人様にお渡ししている。ご本人様の希望がある時は、ご家族様に連絡し電話連絡をお願いしご本人様に繋いでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月手作りのカレンダーを入居者様と共に作成し、リビングに飾っている。玄関先に入居者様と共に植えた鉢植えの植物を置き、外出のときなど成長を楽しんでいる。 洗面台スペースや廊下にも季節の飾りつけを行っている。	居間や廊下には利用者とスタッフによる手作り作品が掲示され、季節感が溢れる共用空間となっています。ゆったりとした食堂には柔らかな外陽、天井からはLEDの優しい灯りで居心地良く過ごせる空間となっています。2階の「地域交流スペース」は地域との交流会議に加え、家族の面会時、また、お孫さん用に絵本を設えるなど多目的利用によりホーム自体が地域コミュニティとして活用を目指しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファで昼寝をされたり、リビングにて入居者様同士本を読まれて笑い声を上げられています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	スタッフと一緒に思い出の家族アルバムを作成し居室の壁飾りとしている。 ご本人の使い慣れた調度品を持って来られている。	個人的には差異がありますが、利用者の以前から使い慣れたものが持ち込まれ、また、写真、絵画が壁を彩る利用者本位の空間となっており、安心して居心地の良い居室を見ることが出来ます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの入り口がわからなくなった方のために、トイレ方向の表示をし混乱を防ぐようにしている。		